

## 講演に関わっての意見・感想等

- 菊池先生の御講演の中に、昨年御講演いただいた木村先生のお話もでてきて、連続性を感じました。
- 今日は大変貴重な学習の機会をありがとうございました。教師も集団で指導にあたるため、いろいろな考えがあり、すりあわせていくことの難しさを感じているところです。また、本日の講演の中に登場した大空小学校の実践にもとても興味があり、木村校長先生が書かれた本を読み、自分の指導（価値観）の問い直し・学び直しに取り組んでいるところです。課題や困難を抱える児童が増えているように感じる中で、個別の高すぎない目標設定、個別の指導計画がとても大事だと感じます。同時に、いわゆる手のかからない子を蔑ろにしないことも大切だと感じます（自分の反省点の一つです。手のかかる子に意識が向き、当たり前のことを自力で出来る子の対応が丁寧ではなかったことがありました。）のびのびと学ぶ環境を大切に、個と集団を同時に育てたり、子ども同士が支え合ったりする姿も大切にしながら、指導に励んでいきたいと思います。
- インクルーシブ教育について、多様性、豊かさ、子どもの現実、ウェルビーイング、教員の働き方と多様な視点から学ぶことができました。
- まず、菊池先生がくださった資料が、とても美しく、読みやすく、分かりやすく、感激しました。『1. なぜいま「ゆたかな学び」なのか?』のお話は、これまで、自分自身の中では考えたことのなかった内容で、とても興味深く聴かせていただきました。それに続く「ゆたかな学び」から遠ざかる教育の現実は、とてもショッキングで、個人化／他者化という表現が心に響きました。これを2学期からの学校経営にどのように活かしていったらよいか考えました。菊池先生の貴重なお話に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。
- 素晴らしい研究会を開催してくださり、ありがとうございました。菊池先生の柔らかなお人柄が伝わってくると同時に、自分自身にとって学びの深い時間となりました。私達教師が子ども達の「違い」を「豊かさ」にどう変換していくか、改めて考えていく必要性を感じることもできました。菊池先生のお話も大変参考になりましたが、研究会の中で視聴した松原高校の動画がとても心に響きました。気付くと涙を流している自分がいて、これからは子ども達の心の声にもっと耳を傾けていきたいと決意することができました。ありがとうございました。
- これまでの自身の実践を振り返り、無意識のうちに能力主義の一元的操作モデルを子どもに押しつけるような関わり方になってしまっていたのではないかと反省しました。時代や社会の変化に合わせて教育や子どもとの関わり方も「変容していく」ものであることを心に留め、「違いを豊かさ」をキーワードに学校全体で豊かな学びを実践できるよう共有していきたいと考えています。

- ・ 「ゆたかな学び」とは何なのか？「インクルーシブ教育」とは何なのか？改めて考えさせられた機会となりました。準備から運営まで大変お疲れさまでした。ありがとうございました。
- ・ 「よわさ」や「できなさ」や「わからなさ」を抱えている人たちで、共につくりあげる「優しい社会」へ進むため学んでいく過程が「ゆたかな学び」であり、それらすべてを貫いているのがインクルーシブ教育なのだということが一番の学びだった。所属校も、特別支援学級の子だけでなく、様々な家庭背景や学習障害などの課題を持った子どもたちがいる。それらの子どもたちを「個」の能力のみに着目していくのではなく、その違いを受け入れる懐の深い学校・学級であることがこれから重要なのだと痛感した。ありがとうございました。
- ・ オンラインで開催してくださり、ありがとうございました。会場まで足を運ぶ必要がなかったのも、とても参加しやすかったです。

菊地先生のお話の中でビデオを見ましたが、あの女の子が自分自身の「痛いところ」（と私は捉えました）を語ることで、簡単にできることではないなと思いつつも、強いメッセージを感じました。あの子が一緒に学んでいる仲間たちは、みんなそれぞれ抱えていることや悩み、課題をすべて受け止める土壌があるように思いました。それこそがインクルーシブなんだと思います。「障害のある人を助けたい」という子どもたちがいます。もちろんとても素敵なことですが、しかし、障害があるから助けたり、障害があるからかわいそう、と思ったりすることとはまた違うような気がしています。相手が誰であろうと、どんなことを抱えていようと、関係なく付き合う関係性を学級集団の中でつくっていききたいなとじんわりと考えました。
- ・ Zoom開催は適当だった。暑い中での参集は無理がある。

豊かな学びを追求していくことが究極の公立学校の使命だと痛感した。学校の実情に合わせ、子ども目線、保護者目線、そして教委や外部機関との連携を忘れずに、地域や学校の特色を生かした教育活動を推進していきたい。
- ・ 今回はオンラインの開催だったため、参加しやすかった。せっかくの機会なので、他の先生方と交流できる時間があったのもよかったのかなと思いました。多くの先生方が参加していたので、他の先生方と同じテーマに沿ってグループごとに話し合うなどができたらよかったです。
- ・ 自分自身のインクルーシブ教育のとらえ方に、個の支援という考え方が強くあったように感じます。個別の支援で個の力を伸ばすことに意識が傾きすぎていたかもしれせん。他者との関係性の中でより良い状態を形成していけるように関わり方、教育活動の在り方を見直していきたいと思えます。

今日はお話をお聞きできよかったです。子供の声を丁寧に聞くことをまず第一に考え、子供たちの関係性を築いていく上でそれぞれの個性を尊重し、よりよい学校生活が送れるような関わり方をしていきたいと思えました。

- ・ 「ゆたかな学び」「インクルーシブ教育」を捉える上での根本となる視点を得ることができました。特に、特別支援学級数の増加の背景として、個を何というしようとする能力主義の影響があるという話が心に残りました。
- ・ 現任校にとって、インクルーシブ教育の理念を共通理解することは重要な課題であり大変有意義な研修となりました。職場に還元していきたいと思います。できれば、パワポの資料をデータで頂きたいのですが。
- ・ 教師として子どもたちと関わる時に大切にしないといけないことを学ぶことができました。教師はいかにわかっていないのか。権力者であってはならない。子どもたちどうしの関わりを大切にすることなど、大事なことを学ぶことができました。貴重なお話をお聞きする機会をいただき、ありがとうございました。2学期にいかしていきたいと思います。
- ・ 夏休みに入り、全国学力調査の結果が公表され、課題を受け今後の対策を考えているところでした。特に学習についていけない、主体的になれない児童にどう支援したら良いか悩んでいるところでした。本日の講演を受け、まずはその児童の現状を把握し、弱さやできなさを理解し、子供同士の関係性を育てていくことが大切だと思います。ありがとうございました。
- ・ 広い視点でのインクルーシブ教育のお話をしていただき、特別新学級にとどまらない、子ども達の個性の見方について学ぶことができました。また、終盤の4名の先生方の意見交換もとても興味深くうかがいました。
- ・ 今日的教育課題についての講義を受講することができたので、とても参考になった。自分自身も含め、校内においてもたびたび話題にあがり、悩む職員も多い内容だったため、何らかの形で本日の内容を共有し、学校に還元していきたい。
- ・ 私達教師自身にもゆとりを持って子ども達に関わっていく事が大切だと感じた。学校という場は、助け合い、弱音を吐ける場所であること、子どもにとっては学級が、私達教師にとっては職員室が、そういう場であることが重要である。現在は、個別最適化によって一人ひとりに目が向きがちであるが、やはり人間関係は、人と人が触れ合っている中で関係性築いていくことが大切である。
- ・ たいへん勉強になるお話を聞くことができてよかったです。私は現在特別支援学級の担任をしており深く突き刺さる言葉がたくさんありました。特に「いっしょに生きていく」ことは「弱さ」・「できなさ」・「わからなさ」を抱えていることの自覚により成り立つという言葉です。教員という立場でどうしても子どもたちに求めてしまうことが多くなり、そこが子どもたちにとってプレッシャーになっていたのではないかとあらためて気づかされました。私自身もできないことがたくさんあるということを子どもたちに伝えていき、お互いに頼ることができるような関係を作っていきたいと思いました。

- 現在の教育の問題点を深い、根源的な"well being"という視点から追及している視点に共感しました。  
個別能力論に基づく能力主義では限界があり、「関係性の豊かさ」を目指すべきという論調には、賛成である。  
しかしながら、社会も文科省もその方向とは逆行している。そのような現状の中で、理想の教育を目指すのは、絶望的に難しいと感じた。
- 私たち自身が受けてきた旧来からの学校社会にある教育観（集団としての教育的価値）を超えて、一人一人の人間の生きる価値について改めて考えることができました。学校を始めとして社会において各人の個性や生き方が尊重される豊かな関係性の構築できるよう職員や児童に伝えていきたいと思います。本日は有意義な研究会ありがとうございました。
- 講師の菊池先生の講話はたいへん参考になりました。加えて、その後の意見交換の部分についてもたいへん参考になり、このようなかたちの研究会の良さを感じました。
- 人は周りの人との関わりの中で育ち、それが生き方につながっていると感じた。学校・教師が、子ども一人一人のあるがままの姿をしっかりと受け止め、子ども一人一人を中心に据え、一緒に生きていくことやその覚悟を持つことが、「ゆたかな学び」の出発点に立てると思った。  
「教育の目的は人格の完成である」教育の本質はここにあることをしっかり押さえてくださり改めて気づかされた。
- 多元的生成モデルの考え方に共感できた。とくに子供たちには、弱さやできないことをやさしさと支え合う協力関係を身に付けていてもらいたい。  
特別支援教育（インクルーシブ教育）について、多くの教育現場で多様な課題を抱えていることから、このような研究会を活かしていけるとよい。
- 今回の研究会は大変有意義な機会となりました。当初、世間一般における「ゆたかな学び」と「インクルーシブ教育」について、別個のものであるとイメージを抱いていましたが、まさに今求められる共生社会において必要であるものであると学ぶことができました。また個別最適な学びに関しても、その意義を確かめながら教育に生かすこと、生徒と対話を重ねながら粘り強い教育を行っていかねばならないことを学ぶことができました。
- 講演から現在の学校が求めていかなければならない、子どもを中心においた子ども同士の関係性や大人と子どもとの関係性をより豊かにしていくことが大切だと改めて感じた。子どものおかれている背景を理解しようとする主体的な活動を教師間で補いながら取り組みができた職場となっている。個別最適化をもう少し広く捉えた実践を目指す視点も職場に広げていきたいと思う。

- 子ども達への関わり方だけでなく、教員同士の助け合いや情報交換、温かい関係性を築くことがインクルーシブ教育を実現していくために大切であると気付かされました。学級経営においては、個の力を高めることに執着せず、集団を高めていくことで個も伸びていくような学級経営を心がけていきたいと感じました。そのためにも、できないことや辛いことを隠すのではなく、発信できる関係性を子ども達と共につくっていききたいと思います。
- 法や経済の仕組み、近代社会における人々の営みから、「ともに学び合う教育」「ゆたかな学びとしてのインクルーシブ教育」「違いを豊かさにかえる教育」へと繋げていく考え方が新鮮でした。ありがとうございました。
- 菊池先生のご講演が非常にわかりやすく、ストレートに心に響いてきました。忙しさの中で、見失っていたものや、逆に優先してしまっているものに改めて気づかされました。子供たち、先生たち一人ひりに居場所と出番がある、安心感ある学校を目指して頑張っていきたいと思いました。ありがとうございました。
- 今日はありがとうございました。「弱さ」や「できなさ」や「わからなさ」を抱えていろいろな環境の中で、どのように関係性の豊かさを築いていくかが重要だと思いました。教師もゆとりをもって、児童同士が助け合い、補い合える関係性を築けるクラスや環境を創っていくことが大切だと思いました。
- 「違いを豊かさ」という言葉がとても印象的でした。「弱さ」「できなさ」「わからなさ」を抱えている人間同士が関わって意見を共有すること。互いに補い支え合うことで解放されつつ学びを深めていくこと。人と人が関わってこそできるあたたかさのある居場所や出番を、まず身近なところから考えていきたいと思いました。
- 日々の自分の実践を見返すと、できるようになってほしいと願うあまり、子供たちに「できる」ことを求めすぎていたように感じた。「できなさ」を認められるように努めていきたい。
- 自分自身の教育者としての姿勢を改めて見直す良い機会となりました。驕らず、焦らず、目の前の子どもたちと対話をしながら、豊かに生きることのできる素地を小学校で育成できるようにしていきたいと感じました。
- 講演の中で、「弱さ、わからなさを抱えているのが人間なので、お互いを理解し合いやさしい社会へと向かっていけるようにする」の言葉が心に残りました。今の社会の中では、「許すことや寛容さ」が見過ごされがちな面があります。クラスの中では、しんどうい児童を中心に据えて「失敗していい」「みんなで学び合っていこう」という気持ちを育んでいきたいと思います。

- 日本のインクルーシブ教育については、国連からの指摘（勧告）もあり、気になっている話題でした。講演を聞き、「ゆたかな学び」とは何かを考えたり、主体的に学ぶとは何かを考えたりしました。日頃、言葉では聞くけれど、立ち止まって考えなくてはならない問題だと感じました。学校教育や、学校の意義についても考えさせられるお話でした。
- インクルーシブ教育についてその大切さは認識していましたが、今日の講演を拝聴して、実践していかなければならないものだとして強く思いました。「違いは豊かさだ」と述べていた小林さんの言葉が心に刺さりました。ありがとうございました。
- 講演会では、幅広い知識と実践など多くのことを学ぶことができました。とても分かりやすく充実した時間となりました。ありがとうございました。また、意見交換でも、新たな視点もありとてもよかったです。
- いっしょに生きながら、いっしょに学び合うための学びの大切さがとてもよく分かりました。目の前にいる子どもの姿、子どもが持っている事実や現実から目を背けずに関わり合っていく事がとても重要だと感じました。一人一人を孤立させて、おのおのの持つ能力だけを見ていくのではなく子ども同士の関係性、関わり合いの中でお互いに成長していくことの大切さを改めて感じることができました。貴重なお話をありがとうございました。
- 率直な意見ですが、全教職員に聞いていただきたい講演でした。本日参加できたことを幸せに感じました。何故かインクルーシブというと特別支援学級に関わることといった認識がまだまだあるように感じます。「ゆたかな学び」とは？コロナ禍の3年間を通す中でICT活用が急速に注目され、個別最適な学び＝個・主体的＝個といった感覚が流されているように私も思いました。改めて、豊かな学びとは、豊かな社会につながることであって、将来の社会を担う子どもたちが人との関わり合いの中で育んでいくものだと感じました。心が豊かになり、どんな状況になった時にも手を差し伸べあえるようなそんな社会になるように、私たちの役割は大きく重要な使命を委ねられていることを再認識していく必要があると思いました。
- 「子どもの事実や、生徒のしんどい現実を真ん中に据える」「一緒に生きていくこと」を大事にする。という言葉が心に残りました。  
様々な特性をもっている生徒の現状を、私たち教員はまず把握することが大切だと感じました。社会に生きるために、どのような力をつけることが大切なのか、そのために、私たちに何ができるのか考えさせられました。
- 他者との出会いによって、その活動が自分にとって「話したい」「伝えたい」という意味をもつ活動となり、力となっていくということに共感しました。動画の中で、「自分が関わり合い」「すべてを背負っていく」という姿を拝見し、涙ぐみました。「できないもの」を子どもに寄りそって補っていくこと、「ちがいを」「ゆたかさ」に「どう導いていけるか、多様性を受け入れることの大切さを感じさせられました。本当にありがとうございました。

- ・ インクルーシブ教育は各所で叫ばれているが、文献研究や事例研究に基づいた「ゆたかな学び」に直結する考え方を学ぶことができた。立ち止まって考える良い機会となった。
- ・ 「ゆたかな学び」について考えさせらる講義でした。「ちがい」をゆたかさにという考えが教育現場に広がり、より一層インクルーシブ教育の本質的な議論が深まることを期待したいです。
- ・ 菊池先生のご講演は、筋道だった内容について柔らかな表現で語ってくださり、とてもわかりやすかったと思います。動画の内容もとてもよかったですし、登場した松原高校の生徒さん（小林さん）がその後、同校の教員となっていることを後に知り、温かい気持ちになりました。  
また、4名の代表の方の感想やご意見についても、話題のポイントが絞られており、良い手法であったと思います。ありがとうございました。参加して良かったです。
- ・ インクルーシブ教育の本質的な問いを提示していただき、教師としてすべての児童生徒（のみならずすべての人）にどのように関わってけばよいかを考えるととてもよい機会となりました。たいへん有意義な研修でした。ありがとうございました。
- ・ 8月4日の研究会、どうもありがとうございました。研究会の中で心に残った言葉は、「先のための今」ではなく、「今」が大切、人が育つということのために「問うべき問い」がとても大事ということです。「問うべき問い」は、各教科のみならず、どのような場でも、大切だと気付かされました。また、「いかに自分がわかっていないか」を知ること、「違いを豊かさに」という高校生の課題の内容など、刺激の多い時間でした。パネラーの感想や意見等もとても勉強になりました。
- ・ 「インクルーシブ教育」や「ゆたかな学び」について、改めて考えさせられる機会となりました。菊池先生の話の内容がやや難しかったのですが、パネラーの皆さんの話から理解が深まり、これまでの捉えの甘さや違いにも気づくことができました。ありがとうございました。
- ・ 一番印象に残ったのは、「インクルーシブ教育」は、多くある教育の中の1つでなく、すべての教育を貫くという内容だった。また、自分も社会も、余分な権力をそぎ落とすことで、他者理解が豊かになる、ということに共感を受けた。
- ・ 日々の仕事に追われてしまっていますが、どの子に対しても、人としての敬意をもち、困っていることや課題と一緒に取り組もうという姿勢を忘れずにいたいと思いました。ありがとうございました。

- 学校という場でしかできないことがあるのだと、とても勇気をもらえました。インクルーシブ教育は単に枠組みを作るだけでなく、我々大人、そして社会の意識を変えていく必要を強く感じました。松原高校の実践にも心惹かれました。

「ちがいを豊かさに」という言葉が心に残りました。また、「しんどさを話せる学校」という言葉も心に残りました。強いこと、活発なこと、早いことなどを追い求めがちになってしまう中ですが、ちがいを認め、許せるために時間的なゆとりも大切ではないかと思いました。ありがとうございました。
- 足元からの試みの中で、「教職員が人間の弱さやできなさを含めて多元的に認識し、子どもの声を丁寧に聞きつつ、子ども同士の関係性の中で育っていくように場作りをすること」が大切であると学びました。
- 本当に生きづらい世の中になってしまった日本社会を変えていくための公教育の役割は非常に大きいと改めて感じました。小さな一歩かもしれませんが、自分も「違いをゆたかさに」と志す生徒を一人でも多く育てていきたいと思いました。

菊池先生のお話で、また一つ勇気をいただくことができました。ありがとうございました。
- 1人ひとりの生徒が違っていいということを学校教育の中でいかに支援していくかが大切であり、今後の課題であると思いました。インクルーシブ教育というと、特別支援教育についての今日的課題であるように感じていましたが、本日の講演を聞いて、全ての生徒に対しての支援であり、「ゆたかの学び」ために必要であると感じました。松原高校の実践である「しんどいことを語れるクラス」こんなクラスに本校のクラスもなっていけるようにしていきたいと思います。そのための第一歩として、職員室が「しんどいことをしんどいと語れる職員室」にしていきたいと思いました。
- インクルーシブ教育に関して、菊池先生の大変わかりやすいご講演は、勉強になりました。「優しい社会」への一歩を踏み出すために、学級集団づくりや教職員集団づくりで「関係の豊かさ」をいかに深めていくのか、自校の実態にあった取り組みを考えて行っていきたいと思います。また、最後の動画は、とても心を動かされました。学びの多い講話をありがとうございました。
- 「子どもの事実や生徒の（しんどい）現実を真ん中に据え」という言葉に感銘を受けました。自分の実践を振り返ると、生徒の助け合いを大切にしてきましたが、それは「助ける、助けられる」の関係を固定化してしまっていたのではと、今日の講演で考えさせられました。この反省を2学期からの生徒との関わりに活かしていきたいと思います。



- ・ 教師も児童もそれぞれの抱える「弱さ」や「できなさ」や「わからなさ」をよくわかろうとし、権力性をそぎ落とすことを通して「優しい社会」を目指していく過程が「ゆたかな学び」である、という考え方がよくわかりました。「いっしょに生きていくこと」を大事にすることで、互いにできないことを補い合い支え合うことで、「しんどさを抱える状態から少しでも解放されつつ学びを深めていけるようにしていきたいです。途中見せていただいた動画がとても心に刺さりました。
- ・ 昨年度も参加したが、講演を聴いた代表者が感想も含めて、ご自分のお話をされてシンポジウムが展開された。やはり、ただ講演を聴くだけでは深まらないため、とても良い試みだと思う。来年度も参加します。ありがとうございました。
- ・ 学校は人と関わらせる場面が多い。人と関わることは、ICT教育が進む中で、もっともっと大切になってくる。善と悪、学習評価のAとC、大学受験の可否、などどちらも社会には存在し、それぞれの立場の人を認めなくてはならない。人とのかかわりの中で、自分はどう生きるのかを子どもたちにも見つけさせたいし、自分自身も見つけていきたいと感じました。ありがとうございました。
- ・ インクルーシブ教育とは障害のある子、ない子の共生社会実現に向けた教育のことだけと思っていたが、もっと奥が深いものだということが分かった。
- ・ インクルーシブ教育を推進できる「インクルーシブ社会（世界）」となっているのだろうか。高校生のアンケートに「社会の厳しさを知った」が3倍近く増えているとの結果があったが、社会が不寛容であれば、その縮図たる学校が寛容になり得るはずがない。子が親の背中を見て育つのであれば、子どもが大人の背中を見て育っていけるように社会の有り様をどうにかしたい。どんなに学生時代に頑張っても社会がそれを否定するようなのであれば、頑張ったこと、学んだことに意味や価値が持てないではないだろうか。まず子ども達にとって身近な大人（我々教員）がインクルーシブを体現できるよう管理職として努めたい。
- ・ 主体性や主体的など主体ということばがもてはやされる昨今ですが、主体的に社会に組み込まれる方向ではなく、社会をより良く変えていく主体（社会の形成者・活動する主体）となる方向に捉え直さなければならぬと思いました。しかも、それは個に閉じられているわけではなく、関係のゆたかさ（コミュニティ・共同体）の中にあることが腑に落ちました。そのためにインクルーシブという視点がいかに大切かを再認識しました。理想社会の実現のために、忙しいを常套句にして思考停止している場合ではありませんね。

- 様々なお話を体現していた高校生の発表は、違いを認め、これまでの自分の全てを背負って颯爽と歩いて行く姿に涙が出ました。きれいごとでなく本音で語り、協働的に問題を解決していく生涯の課題研究のあり方がそこにありました。差別やいじめを生んでしまう自分の心の弱さに打ち克った言葉は強いと思います。現在、教職で今も「違いを豊かさに」を実践されていることにも感銘を受けました。

コロナ後、改めて学校の役割が見直される中で、ただただ頑張らなければいけない場所ではなく、「できなくていい」「しんどいことを語れる学校」を2学期、目指していきたいと感じました。ありがとうございました。
- 児童の小さなことや気になったことを互いに話すことができる職場の雰囲気は今後も続けていこうと思いました。
- インクルーシブ教育に関わって、子どもたちとの向き合い方を改めて考えなければならぬと感じた。また、教師対子どもだけではなく、子ども同士の向き合い方についても考え直すきっかけとなった。何でも言い合える関係作りは学級経営に関わるので、この夏休み中に考えたい。
- 学校は人と人（生徒同士、教師と生徒、教師同士）との関わり合いの中で様々なものや考え、事柄が生まれる場所だということを改めて考えさせられた時間でした。できない生徒、わからない生徒にできる生徒やわかる生徒が関わり合ってみんなで前に進むという姿を目指すことは学校にとってとても大切なことに感じます。一方、ICTの導入によって「個別最適な学び」を充実させることも唱われており、この2つはある意味矛盾しているようにも感じます。なかなか難しい問題だと思いました。
- 「個人を排他的に分断するのではなく、一緒に生きながら、一緒に学び合え、脱権力のための学びとしてとらえる」ということばがとても印象に残りました。生徒たちへの接し方や生徒たちの姿を分析していく方法を変えていかなければならないと感じました。本日は本当にありがとうございました。
- 今回の研究会を通して改めて「豊かな学び」を考える機会となりました。特に「インクルーシブ教育の内発的実践に学ぶ」の中の2校の実践はとても勉強になりました。管理職の立場から改めて職場づくりに視点を当てて、2学期から教職員のしんどさを抱える状態から少しでも解放してあげられるような工夫を考えていこうと思いました。
- インクルーシブ教育とは、障害の有無にかかわらず、子どもたちの多様性を尊重することが大切だと思いました。全員で同じことをやることはもちろん大切だと思いますが、一人一人の得意なこと苦手なことを教師が理解し、良さをのばしていくことが大切だと思いました。ありがとうございました。

- ・ たくさんのお話を聞かせていただいた中で、「周りが育たないと、その子が育たない」「『違いを豊かさにどう変換するか』が教師の腕の見せ所」「関係の豊かさをいかに作っていくか」という言葉が心に残りました。「教師が一人で何とかしよう」とするのではなく、校内、家庭、地域、専門機関など、様々な人とのつながりを生かしながら、子どもたち一人一人と向き合っていくことが大切だと感じました。
- ・ 「違いを豊かさに」という言葉はとても印象的でした。クラスにも発達障害の疑いのある児童が何名もおります。みんなと同じにできないことを苦しんでいる様子を見るのはとてもつらいことです。誰もが弱さやできなさを抱えていることを子どもたちにも自覚してもらい、みんながちがうこと、ちがってもいいことを繰り返し伝えていきたいと改めて思いました。
- ・ 自分がいかに分かっていないかを軸に学び続けることや、誰もが弱さ・できなさ・分からなさを抱えていることを前提に、子どもの声を丁寧に聞く中で場を作っていくこと、そして、教職員同士で協力し合うことなど、豊かな学びのための多くのヒントをいただきました。ありがとうございました。
- ・ 昨今の教育課題についての話題提案であったので、興味・関心をもって聞くことができました。ICTの活用が求められていますが、教育は人と人との関りが大切なものであるということを確認させられました。
- ・ 昨年度も参加させていただきましたが、本当に参考になる講演会でした。ぜひ、来年度も参加させていただければと考えております。
- ・ ここ数年特別支援学級の担任をしています。インクルーシブ教育は臆気ながら理解しているつもりでしたが、先生の講演を聞いて、まだまだ課題があることを認識しました。これを個人の感想にとどめず、全職員に還流していきたいと思います。
- ・ テーマはとても興味があったが、日々の実践に活かすという意味では少々難しい内容だった。
- ・ 本日は貴重な講演を聴かせていただき、ありがとうございました。菊地先生の専門的な視点からのお話はどれも参考になることばかりでした。多様な生徒、家庭が増える中、個別最適で協働的な学びを与えていくことに、改めて使命感をもちました。目の前の子どもたちに何ができるかを今一度考え、今後の教育活動に努めていきたいと思います。本日はありがとうございました。
- ・ 支援学級が増加しているという現状について、専門家の目線でお話を伺うことができ、大変新鮮でした。児童の生活背景を知ること、児童の声を丁寧にききとることの重要性を感じました。学級に様々な支援を必要とする児童がいますが、それぞれの児童が居心地よく過ごすことができる環境づくりに努めていきたいと思います。

- ・ インクルーシブ教育が、人間全般にあてはまることを再認識できました。お話から、弱い・できない・わからない「自分」を勇気づけていただきました。自分だけでなく、生徒・保護者・同僚・家族を丸ごと受け止めて、互いに信頼し合えるように（与えつづけ）になりたいと思いました。
- ・ 学びを豊かにすることや、ちがいを豊かにすること、など一人一人を大切にすることの重みを改めて感じました。日々の子どもののかかわりに生かしていきたいです。
- ・ インクルーシブ教育について菊地先生より多くの資料や事例、そして松原高校のドキュメントを通して具体的に分かりやすく示していただき、学ぶことができました。  
特に印象に残ったのは、「ウェルビーイング」関係性の豊かさの中で力を育んでいくことや関係性の良い中で、互いに働きかけながら力を伸ばしていくことでした。教育は、社会状況や経済、法律等あらゆるものが関係しており、それが密接に教育方針に結びついていることから、社会の都合の良い一員として（労働力的な部分）を生み出しかねないということに気づかされました。教育基本法の理念、社会の形成者として資質を高めていくことに立ち返り、改めて日々の実践をふり返っていきたいと思います。ありがとうございました。
- ・ 支援を必要とする児童への見方を考えるために参考になりました。
- ・ 講師の先生方はもちろん、最後にご発言いただいた4名の先生方からもたくさんのごことを学ぶことができました。ありがとうございました。
- ・ 子ども、大人ともそれぞれ得意な面、不得意な面がある。私たちは、そのことを理解し、各々が不得意な面を補って生きていけるようにすることが必要であると感じた。そのような学級や職場、社会を作っていく必要がある。
- ・ 一人一人の個性（？）に対応したインクルーシブ教育に対して、賛成と思える部分は多かったが、実際に現場の中で進めていこうとすると問題点が浮き彫りになってきている。その問題点が今回のご講演によって明らかになったような気がする。  
お話の中で一番印象に残っているのは、やはりビデオの発表の場面である。心の内をさらけ出した勇気、出せる場の存在、そして話の内容に感動した。「ちがいをゆたかさに」還元し、「いっしょに生きながら、いっしょに学び合う」場としての学校学級をつくりたい。
- ・ 「ゆたかな学び」について、実際の教育現場での現状を踏まえた上でお話をさせていただきました。『「子どもの事実」を真ん中に据えて一緒に生きていくことを大事にすること。』『「弱さ」や「できなさ」を含めて認め合い、子どもの声を丁寧に聞き、子ども同士の関係性の中で育っていくように場づくりすること。』を意識していきたいと思いました。  
私も私なりに「優しい社会」への一步を試みてみたいと思います。ありがとうございました。

- ・ 「ゆたかな学び」からインクルーシブ教育を考える過程が、非常に興味深かったです。
- ・ 子どもの置かれている状況や家庭環境、何より「しんどい」というサインを見逃さず、一緒に悩み、一緒に成長していくことが大切だと学びました。
- ・ 菊池先生の穏やかで分かりやすい例えを交えた解説が大変勉強になりました。今後の指導にも参考にしたいと思います。ありがとうございました。
- ・ 日本のインクルーシブ教育については、国連からの指摘（勧告）もあり、気になっている話題でした。講演を聞き、「ゆたかな学び」とは何かを考えたり、主体的に学ぶとは何かを考えたりしました。日頃、言葉では聞くけれど、立ち止まって考えなくてはならない問題だと感じました。学校教育や、学校の意義についても考えさせられるお話でした。
- ・ 自分自身の「弱さ」や「わからなさ」を認知し、そのことを分かったうえで学び続けることの大切さ。権力性をそぎ落とす。教員どうしの支え合いなど、私たちが大切にしなければならないところを指摘していただきました。実行に移せるように、仲間を一人でも多く作っていかれたらと思いました。
- ・ インクルーシブ教育について理解を深めるとともに様々な事例をお示しいただき、わかりやすくご指導いただきました。ありがとうございました。
- ・ とてもこれまでの教育観を考え直すよい機会となりました。理想と現実の中、どの先生方もがんばっていると思います。児童も多様ですが、先生・大人こそ多様です。そう考えると、人間は多様で、「できないこと」「弱いこと」がみんなあり、それをお互いに責め合ったり、直させようとしたり、教え込もうとしたりすることじたいが違うのだと思いました。私が児童に伝え育てたい心は、認め合う力＝優しさ＝考える力だと思います。理想だけで終わるのではなく、行動していきたいです。
- ・ インクルーシブ教育についてどうしても分からないことがあります。同じ空間で学ぶべきであり、分けること自体がインクルーシブではない、という考えで行うのであれば、そもそもの特別支援学級などの制度自体を大きく見直さなくてはいけないのではないのでしょうか。大枠を変えず現場のボトムアップでやれることなのでしょう。現場の教師の努力で変えていくという考えでは通用しないと思います。大空小学校、松原高校の実践は素晴らしいですが、それがだれにでもできるシステムというものを作るにはどうすればいいのかを考えなくてはいけないと思います。

- 所属校で、目の前で画面に向かって集中して研修を受けることができました。対面で話すのも良いがZOOMの良さもありました。

教職員同士もお互いに補い支え合えるような職員室をつくっていくことが大切だと思います。職員室が良い雰囲気であれば、子どもたちができないことを含め、認め合える教室を作っていけると思います。「ちがいを豊かさに」良い言葉だと思います。
- 講演会では、幅広い知識と実践など多くのことを学ぶことができました。とても分かりやすく充実した時間となりました。ありがとうございました。また、意見交換でも、新たな視点もありとてもよかったです。
- 子どもたちも教職員も、人とかかわることを通して豊かな関係性が築けるように、2学期もからまがなばっていきたいと思う内容でした。弱さやしんどさがはける、ちがいを受け入れ豊かさに変えられる学びができるようにしていきたいと思いました。
- 私たちの意識を変えていくためには、長い年月が必要だということを感じています。インクルーシブ教育は、私たちの「生きる」ことに直結した大切な教育です。よりよい社会の担い手として、共生社会へ意識を持たせていく必要があると感じています。本研修を受けて、誰もが幸せになれる社会を目指し、学校において関係性の豊かさを作り出していくことの重要性を学ばせていただきました。
- 最初は、少し難しそうな印象がしましたが、キーワードがあり、現場の子どもへの対処が今の方向で間違っていないのだと確信することができました。職員室での子どもを中心に据えた温かい会話を継続していきたいと思います。また、できないことも強みとなり支えあうことが大切だと職員・生徒に伝えていきたいです。
- 中学生という思春期真っただ中の生徒たちが自分と他者との違いに悩んだり、苦しんだりする姿をこれまでも見てきました。違いに目を向け、葛藤しながら自分自身を受け入れていく中で、人と違っていいのだということに気づいていくことができるわけですが、通常学級においてもこの成長過程に苦しみ、不登校になってしまう生徒もいます。インクルーシブ教育が叫ばれ、特別支援学級の生徒が交流学級で協働していくことの重要性に目を向けられてきていますが、本当の意味で受け入れ、分かり合うことの難しさに直面しています。どちらの場合においても、根本には「同じようにできないことへの不安」と「同じようにできないことへの排除」があるのではないかと思います。「違いを受け入れること」は私たち日本人にとって、とても難しいことなのだと感じます。幼少期からの教育の中で、それを払拭するような教育が家庭においても教育機関においても行われていかなければならないのだろうと感じました。そのためには、大人の意識の変容が求められるのではないかなと感じました。本日は、ありがとうございました。

- 今回”一人ひとりに「ゆたかな学び」を実現するために”菊池先生の講演を聞き、ゆたかな学びについてとても考えさせられました。誰でもゆたかな学びを心がけて児童とかかわっていると思うが、それは教師の主観であり、児童へ本当の学びにつながっていないこともあるのではないかと感じた。お話の中でもありましたが、まずは、児童の本当の姿を知ること、ちがいを抱えている児童のそのちがいをゆたかさに変えるために児童との関係づくりを行うことの大切さを知ることができました。
- 固定しがちな視点を変えたり、目線を変えたりすることによって、受け止め方や捉え方の幅が広がること、そして発見や改善につながることを改めて感じました。
- インクルーシブ教育に関して、菊池先生のご講義では、貴重な2つの事例から具体的な話があり、学びが多くありました。学校教育の中で、学びの本質をご教授いただき感謝しております。
- 教員として、資質・能力を身につけさせること、知識を習得させることに追い立てられ、授業を進めていると感じることが多くあった。しかし、それがゆたかな学びの場を奪い「自閉した世界」に追いやっていることにつながっていると実感した。子どもの事実（わかっていないこと等）を受け止め、そして、自分自身の弱さに目を向け、子どもが学習できる場をつくっていかねばならないと強く感じた。
- 菊池先生のお話をうかがい、個別最適な学びを進めていく中で、私たちは児童を個としてとらえ、その能力を伸ばしていくためにと指導をしている場面があったことに気がきました。もちろん個の能力を高めることは大切ですが、それらを共同性をもってより高めていくこと、それこそが「一緒に生きていく」ことなのだと思いました。児童同士、児童と教員といった人と人とのつながりを大切にしながら、そしてできない部分はみんなが補い合いながら、「ゆたかな学び」を実現していきたいと思いました。
- こどもたちの「わからなさ」を意識して授業に取り組んでいきたいと思います。そして違いを豊かさに変えられるようなクラスにしたいです。
- 学校教育は、集団の中で教育です。他者とのかわりの中で、相手を認め、多様性を認め、自分自身も認められるような教育が大切であると、改めて感じました。  
（今年もオンラインでの研究会でよかったと思います。内容が昨年度に比べ、少し難しかったように思います。）
- 足元からの試みの中で、「教職員が人間の弱さやできなさを含めて多元的に認識し、子どもの声を丁寧に聞きつつ、子ども同士の関係性の中で育っていくように場作りをすること」が大切であると学びました。

- 現在、個別最適な学びの実現を目標に校内研究に取り組んでいます。個別最適な学びを実現していくにあたり、「指導の個別化」「学習の個性化」が重要視されますが、個の力を伸ばそうとすることが、「豊かな学び」から遠ざかってしまう恐れがあることを認識することができました。また、子どもたちが互いに支え合い、補い合えるような関係性は、対話を通してつくられていくということに深く考えさせられました。ICT教育が謳われ、得意を伸ばす教育が進められている風潮がある中で、子ども達同士のつながりを意識した教育活動の重要性を忘れず、教育活動に臨んでいくことが大切であると感じました。本日はありがとうございました。
- ともすると生徒の「個」を重視するあまり、関係し合うことや関わり合うことの大切さを知らず知らずのうちにしてしまう可能性があることに気づきました。「ゆたかさ」を問い直してみたいと感じました。

また、講演中に紹介していただいた小林さんの映像には感動を覚えた。
- 「ゆたかな学び」としてのインクルーシブ教育の講演はとても勉強になりました。どうできるようにしたらいいのか、できることをのばすには、ということにとらわれすぎていたように思います。ただ、ちがいを豊かさにするのは、どうしていったらいいか。どうやったら児童同士の関係性をつくっていけるか、難しさも感じます。まずはお互いがちがっていて当たり前なんだ、という意識を、そして同じ仲間なんだという気持ちを育てていきたいと思いました。
- 『弱さやできなさを抱えているのが人間』という言葉が印象的でした。「子どもの事実」や「生徒の（しんどい）現実」を真ん中に据えて、『一緒に生きていくこと』を大切にしていきたいと思います。

インクルーシブ教育をテーマにした講演で、教職員同士が補い合うことの大切さが挙げられているのを聞いたのは初めてだったように思います。新たな視点からインクルーシブ教育について考えることもでき、よかったです。
- 菊地先生の講演をうかがって、インクルーシブ教育について深く知ることができました。ビデオはとても印象深く、心に残るものでした。高校の教師として活躍されているとのこと。活躍をお祈りします。

「ゆたかな学び」のためにできることを自分の中に答えを見つけられるように少しでも進めていきたいと思います。
- 学校は人と関わらせる場面が多い。人と関わることは、ICT教育が進む中で、もっともっと大切になってくる。善と悪、学習評価のAとC、大学受験の可否、などどちらも社会には存在し、それぞれの立場の人を認めなくてはならない。人とのかかわりの中で、自分はどう生きるのかを子どもたちにも見つけさせたいし、自分自身も見つけていきたいと感じました。ありがとうございました。



- 普通学級に在籍している児童にも特性を持っている児童が年々増えていて、教師ももちろん、児童同士にも発達段階による合理的配慮の理解の必要性が感じられる昨今です。その中で、とても参考になる学習会でした。ありがとうございました。
- 「人間を多元的に認識すること」の大切さを改めて学ぶことができました。自分自身も熱心な無理解者になりがちなので、今後は相手に寄り添い声に耳を澄ませながら、認識を更新していくことができるような日々にしていきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。
- 今日的な課題について（個別最適な学びと協働的な学びの両立、不登校児童生徒の学びの保障、ICT・AIの利活用など）
- 菊池先生の語り口がとても優しく、聞きやすいという印象で聞き始めました。聞き終わって、「語り口が」ではなく、人間性・感性の柔らかさからの先生の存在が本当に優しいのだと気付きました。夏休みに心洗われる思いです。インクルーシブを話題とするのに「障害」や「健常」に注目するのではなく、より大きく捉えてお話しされていたことに心打たれています。「個別最適な学び」に対する先生のご意見や、「公教育に最後に残された使命」が人と人とのつながりである、というお話しにも感銘を受けました。私自身も「弱さ」や「できなさ」に潰されず、一番大切なことを忘れずに教師をしていきたいと思いました。聞くことができて良かったです。
- インクルーシブ教育の考え方や、最先端である大空小学校と松原高校の実践等について知ることができ、勉強になりました。一方で、特別支援学校・特別支援学級だからこそその良さ、学びの個別最適化のメリットというものもあるのではないかと考えています。子どもたちが共に生き、共に育つためにできることについて、今後さらに学びを深めていきたいと思います。
- 菊池先生のご講演、興味深く聞くことができました。また、菊池先生を交えての意見交換も楽しく聞かせていただきました。オンラインでの開催、意見交換の方法などの研究会の持ち方も、参加者としては参加しやすく楽しめたのでとても良かったです。学びも多くありがたかったです。
- 様々な環境に置かれている子どもたちによりそうために、教員が何でも話せる雰囲気づくりをしていく必要があるのだと感じました。そのためにも、教員同士もよい関係を築き、情報共有しやすい職員室づくりをしたいです。弱さやしんどさを認め、一緒に乗り越えられるような人間関係づくりをしていきたいです。研究会ありがとうございました。
- 今後、学校教育で目指すべきは「その子らしさが発揮できる」教育であると考えている。その点でも、本日のご講演はとても参考になりました。

- ・ 演題を見て、てっきり「特別支援教育」についての講義だと思ったのですが、「豊かな学び」がメインテーマだったようですね。できれば、話の内容が類推できる演台にしたい。

また、せっかくwebでの研究会にしたのだから、このアンケートもフォームで収集するようにはいかがでしょう。と言うより、メール添付方式は賛同できかねます。理由は回答者が特定できてしまうからです。（記名式と同じですよ。）

フォームならメールを送る手間が省けますし、集計の際も楽ができるはずですよ。（メールで送られたものは、いちいち添付されたアンケートをダウンロードしなければならないし、それを集計するのも非常に厄介ですが、フォームなら何もせずとも自動的にエクセル形式で吐き出してくれますよ。）無料ですよ。

- ・ 豊かな学びとは何か、インクルーシブ教育とは何か、少しですが、理解することが出来たように感じました。どの人たちも生きづらさを感じており、その違いを認めて生きていく大切さを改めて考えることが出来ました。子どもたちやこれから関わるいろいろな人たちの違いを認め合いながら、生きていきたいです。
- ・ 今日の内容は、今日の教育課題の一つであり、大変勉強になりました。本校でもさまざまな課題を抱えた生徒が多いので、この学習を2学期につなげたいと思います。
- ・ 分かりやすい話で納得できた。「弱さ」「できなさ」「わからなさ」を抱えているのが人間。それを認めるというスタンスで、子ども・保護者・同僚と関わるのが大事だと改めて思った。「ちがいを、ゆたかさに！」という言葉も印象に残った。何を違いと捉えるかは人さまざまでしょうが……。
- ・ 意見交換会でも出されましたが、個別最適な学びが推進されている中で、能力主義的な方向に進んでいることに不安を感じました。学びが孤立化することなく、協働的に学べるように授業改善を図っていく必要性を改めて実感しました。また、ウェルビーイング＝関係性というお話もありました。社会は、違いに不寛容で生きづらくなってきています。その中で、人同士がいいところも悪いところも認め合うことで、生きやすい世の中になってほしいなと感じました。
- ・ 講演内容は専門性が強く、少し難しく感じる場所もありましたが、その中で大阪の松原高校の発表映像が印象に残りました。やらせるのではなく、生徒からの自然な発信としてあのような発表ができることが真の学びであると感じました。
- ・ インクルーシブ教育について、具体的に学ぶことができました。ありがとうございました。最後の高校生の言葉にインクルーシブの意味がすべて入っていますね。菊池先生がお話してくださった通り、「かわっていくこと」が大切だと思いました。

- 動画の中の高校生がとても印象的でした。「ちがいをゆたかさに」という言葉が高校生から発せられる、松原高校の実践がとても興味深かったです。この言葉を学校の中で意識し、生活するのはとても難しく、どうすれば？どんなことを通して？と考えさせられました。学校だけが何かをするのではなく、地域や社会が変わるには学校で何ができるか考えることが必要なのだと思います。
- 発達・能力論での【力→活動→意味】という論理が大人の考え方であるという話は、普段生活している中で、深く意識しておらず、講義を通して認識することができました。生徒が何に意味を見出しているのかという視点は、とても大切で重要だと頭では理解しているつもりでも、意識し続けなければ大人の理論に戻ってしまうことを改めて認識し、今後の関りの中で強く意識していかなければならないと感じました。
- 特別支援学級や不登校・通常学級で支援を必要とする児童が増えている中で、インクルーシブ教育の根本的な意義などを聞くことができ良かったです。互いに支え合って、それぞれの課題に向き合う姿勢を大事にしていきたいと感じました。子どもに寄り添った課題を見つけ、すべての子どもが安心して学習・生活できる場を提供していきたいと思います。難しことですが、違いを豊かさに変えていけるような指導をしていきたいと思いました。  
ありがとうございました。
- 私の教室にも衝動的に行動してしまう児童がいます。配慮を必要とするその児童に対して、私自身が行っている行為が正しいのか間違っているのかわからないままで熱心な無理解者になっていなかったらどうか。と思いました。○くんの「わからない」「つらい」「大変」にどれだけより添えていただろうか。しんどい現実を真ん中に見つめて、改めてしんどさを取り除ける対策を、関係性を育て上げながら、意識して考えていこうと思いました。
- 「豊かな学び」の意味を考えさせられた研究会でした。自分の失敗をさらけ出し、弱音を吐きながら、互いを認め合え違いを豊かさに変えていく。そのような学校づくり、職場づくりを管理職としてすすめていきたいと感じました。このような貴重な機会をありがとうございました。
- インクルーシブ教育が、人間全般にあてはまることを再認識できました。お話から、弱い・できない・わからない「自分」を勇気づけていただきました。自分だけでなく、生徒・保護者・同僚・家族を丸ごと受け止めて、互いに信頼し合えるように（与えつづけ）なりたいたと思いました。
- 「弱さ・できなさ・分からなさ」を抱えているのが人間であるという話から、教師として自分の権力性をそぎ落とし、優しい社会をつくり上げていきたい。子どもにとっても、職員間の中でも「豊かな学び」になるような学校にしていけるよう意識したい。

- 関係性の豊かさが心に残りました。先生方が身にまとった鎧をとって、できない自分をさらけ出し、教員間を風通しよくすることが、生きやすさ、仕事のしやすさに繋がると思いました。
- 本日は、ありがとうございました。「いかに分かっていなかったか？」を学んでいる最中です。「子どもの事実」に教えられてきたなあと特支担任となった1年と4ヶ月でした。これからも自分自身の権力性をそぎ落としていこうと思いました。とてもよい学びとなりました。
- 日々の授業の中で、学力を身につけさせることに力を入れてしまったが、違いをみとめ、子ども同士の関係性の中で育っていくような場をつくることを意識していきたいと考えるようになりました。
- 個を尊重することは大切ですが、個を尊重しすぎたり、孤立したりしている状況が現状では気になります。  
学校だからこそ、関係性の豊かさ、障害があるなしに関わらず、交わってコミュニケーションをすること等、関わりが大切だと感じました。  
教職員、子どもともに辛い気持ちを出させる場所も必要だと思いました。
- 研究会ありがとうございました。時代とともに子供たちの様々も変わっていき、個にあった指導、誰もがわかりやすい授業、指導を探りながら日々悩んでいます。今回の研究会で、悩みの種の解決のヒントにいただいたように思います。これまで見えなかった新たな視点を見つけることができたり、大切なことを再認識できたりしたので、大変勉強になり、ありがたかったです。研究会で学んだことをいかしながら2学期以降も子ども達のために頑張っていこうと思えます。本当にありがとうございました。
- 研究会ありがとうございました。私自身がまだ経験も浅く、日々子ども達と接する中で分からないことも多く、どのような指導が合っているのか等を考えながら子ども達と向き合っています。今回の研究会では自分にはない見方や考え方を学ぶことができました。今回学んだところを参考に、今後の自分に役立てたいと思えます。本当にありがとうございました。
- 今日の講義の中で「能力主義ではなく、能力に従って任務を分配し、それを遂行するため必要なものを与え合うこと、つまりそれが一緒に生きていくことだ。」という部分が、まさに今の社会で大切にしていかなければならないことだと感じました。また「いかに自分が分かっていないか」「弱さやいたらなさを前提とする」など教師としての姿勢についても学ばせていただきました。とても有意義な時間でした。
- ゆたかな学びの重要性について菊地先生の講演を経て、再認識することができました。「いかにじぶんがわかっていないか？」ということを中心に据えて、学び続けることがインクルーシブ教育において大切な点であり、子どものみならず、教師も意識していかなければと思いました。

- これまでの学校教育は、特性のある生徒に努力させることで通常級の生徒に近づける(力をつけさせる)ことを目指していたように思います。しかし、これからは違いを認め合い、お互いに補い合う教育が一層大切になってくると改めて感じました。担任しているクラスについて考えても、現実には厳しいですが、何が「ゆたかな学び」なのかを心に留め、2学期の指導にいかしていきたいです。
- 「違うことが恥だと考えていた」拝聴させていただいた動画で生徒が自分の弱さをさらけ出して皆に訴えかける姿に心を動かされました。わからなさ、弱さ、できなさを認め合える関係性のゆたかなクラス、学校づくりを目指して私自身も変わっていこうと考えました。
- 昨今の教育課題に即しているものであり、非常にためになった。
- 「ゆたかな学び」を実現するために、私たち教師、学校ができることは何か改めて考えることができました。オンラインやICTの発達により、家庭で学習することができる時代ですが、学校という場所で人(友達や教師)との関わりの中で学べるのがたくさんあると思います。私自身教師として人として、生涯学び続けたいと思いました。ありがとうございました。
- 人間の「弱さ」「できなさ」「わからなさ」を認める。「ちがいを豊かさに」がとても印象に残りました。知的の児童を担当していますが、大人(自分)がまず弱くて、できないことを認め、児童を受け入れることをしなくては…と改めて考えさせられました。ありがとうございました。
- 現在多様な生徒が増えています。学力だけではなく、いろいろな人と関わることで、学びがあります。一人ひとりの良さに目を向けて、それぞれの学びにあった形で、共に生きることを学んでいけたらと、今回の講演を聴いて感じました。ありがとうございました。
- 心に残るフレーズが多く、大変勉強になりました。「権力性をそぎ落とし、教師というからを脱ぎ捨てる。」とか「いかに分かっているかを軸に据えて、学び続ける。」など今後も忘れずにいたいと思いました。
- 特別な支援を必要とする生徒が増加傾向にある現在の学校状況に対して、とても有意義な研究会であると感じました。きょういんどうしがたがいに辛さやしんどさを共有できる職場であることは、生徒を多角的、多面的に捉えることに繋がると強く感じました。この時代に求められる教育とは何かを改めて見つめ直すきっかけになりました。
- 本校にも特別支援の児童が多数在籍しており、交流級にも配慮が必要な児童も多くいます。その子たちにも「違いを豊かさに」という考えのもと、安心して過ごせる学級づくりをしたいと強く思いました。本日はありがとうございました。

- 足元からの試みの①～⑤がとても良い。自分の学校でも取り組んでいるとは思いますが、本当にそうだったのか、今一度振り返る必要がある。子どもが声を出すことが自由にできる環境を作りたい。働きやすい環境作りも必要。田中先生（パネラー）の発言がとても良かった。人間のよわさを共有したい。子どもが弱音をはける、SOSを出せる学校が大切。
- まずは子どもの声に耳を傾けることの大切さを改めて知ることができました。また、教師同士支え合ったり、地域との連携も大切だということに気づかされました。年々支援を必要とする子どもたちが増えています。本日の研修を、他の職員と共有したいと思います。
- 教員の長時間労働に最近ずっといわれていますが、今年自分になってみて、現状を見ると、遅くまでいる先生方が多いと感じた。インクルーシブ教育については、障害がある人たちだけを見るのではなく、我々も”弱さ”を出すということが新しい視点だった。子どもたちも我々教員も、弱みを出して支え合うことが大事なのかなと感じた。また、私の職場では、先生同士で弱さやしんどさをぶつけられる様子があまり見られなかったもので、そのような職場にできたらありがたいです。